

平成 29 年度活動助成 活動実績報告書 (WEB 掲載用)

団体名	特定非営利活動法人全日本大学開放推進機構
活動テーマ	安心社会づくりのための危機対応「傾聴ボランティア」の養成

5 月 20 日 講演
「傾聴ボランティアの意義」 三瓶千香子講師



6 月 10 日 第一講 「相手の心に寄り添う心のかよう聴き方」 岡安詔子講師



6 月 24 日 第二講 「平成 26 年広島大規模土砂災害の実態」 現地見学



9 月 30 日 第六講 「まとめ」 藤土圭三講師



広島という地域は、地震が少なく台風の襲来もあまりないところと市民は認識しているが、平成 26 年 8 月の土砂災害は、その意識を一変させることになった。天災は花崗岩が風化したまき土による里山の土壌が土砂災害を起こすところが多くあるだけでなく、戦前までに起きていた常習的な水害をも思い起こさせることになった。こうした不安心理は瞬く間に市民の間に広がって、これを地域社会の克服すべき社会的課題と捉えられるようになった。本企画もそうした問題意識で、被害者を中心に悲嘆な経験をした人々の不安を幾分でも回復できるようにするために市民がなにかできないかということから、傾聴による精神的ケアを目指して活動できるようにスキルを身につける講座を開くことにした。講座は、単発講演とは異なり、体系的に知識を取得し、実践力を身につけることができるので、今回は 1 回 2 時間半の講義 7 回で構成した。その講義の内には、実際に被災地の現地に赴いて被災者から直接に状況を聞く事ができた。これが自分たちの取り組むボランティア活動について、深く、かつ真剣に考えさせる事になった。助成金対象の講座が無事終了する頃から、継続的に傾聴に関する継続講座を開いて欲しいという要望が出たので、秋期には独自に講座を開いた。また、受講生から「傾聴広島」という団体が今年初めに組織された。傾聴ということは、天災などによる被災者だけに必要なのではない。現代サラリーマンが酒に酔って紛らわしていること、DV で苦しんでいる人、老人病院や緩和ケアなど幅広い分野に活動するところがある。私たちにとっては、広域での社会的課題が生涯学習のテーマとして取り上げられることができるという勇気を与えられた。この意味がわかったことも大きい。